

太平洋スプレーコート

- 半乾式吹付け耐火被覆材
- 乾式吹付け耐火被覆材

太平洋防火コート

- 不燃吹付け断熱材

太平洋フェンドライト

- トンネル用湿式耐火被覆材

長い実績と確かな施工 お客様のニーズと信頼にお応えします。

私共太平洋マテリアルでは、各種耐火被覆材および断熱材を取り揃えております。

耐火被覆材は、一般的なロックウール吹付け工法(半乾式・乾式)をはじめ、トンネル用吹付け工法(湿式)がございます。断熱材は、不燃吹付け断熱材がございます。仕様に合わせてお選びください。私共太平洋マテリアルは現状に満足することなく、新材料・新工法の研究開発に努力しております。

目次

建築基準法、認定番号	2
太平洋スプレーコート・ニューシステム	3
太平洋スプレーコート	4
構造部分別施工法	5
太平洋スプレーボンド	7
太平洋防火コート	8
太平洋フェンドライト	9

【トンネル用湿式耐火被覆材】

太平洋フェンドライト (トンネル用)

アスベスト含有商品ではありません

太平洋フェンドライトはバーミキュライトとポルトランドセメントを基材としたプレミックスの湿式耐火被覆材です。

1200℃の高温に達するトンネル内での車両火災。特に天井部分には大きな負荷がかかり、従来のコンクリート工法では爆裂や落下の危険があります。バーミキュライトとポルトランドセメントを基材とした湿式耐火被覆材太平洋フェンドライトは、高い耐火断熱性能で構造体をしっかり保護します。また吹付け工法なので目地を取らずに一体化でき、施工が簡単です。そのため工期が短縮されて経済的です。

特長

- 優れた耐火性です。
トンネル火災発生時、部材からの有毒ガスの発生はほとんどありません。また、ドイツの安全指針であるRABT曲線による実験で、優れた耐火性が実証されています。
- 耐久性に優れています。
火災時の熱衝撃はもちろん、部材にかかる負荷や温度、湿度の変化にも対応します。
- 施工が容易であり、経済性に優れています。
当社独自の吹付け工法により、簡単な施工、工期の短縮が可能です。ご要望に応じてローラー仕上げも可能です。
- 目地は不要です。
吹付け工法により目地がなく、目地部の性能低下がありません。



吹付け作業



プラント

用途

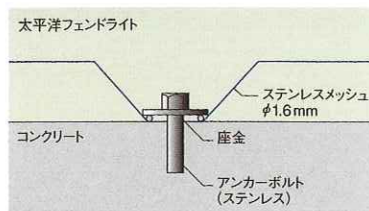
- 道路・鉄道用等の交通用トンネル

工法

山岳工法、シールド工法、沈埋工法、開削工法

工法種類

- メッシュ固定方法例



施工手順

工法のフローチャート

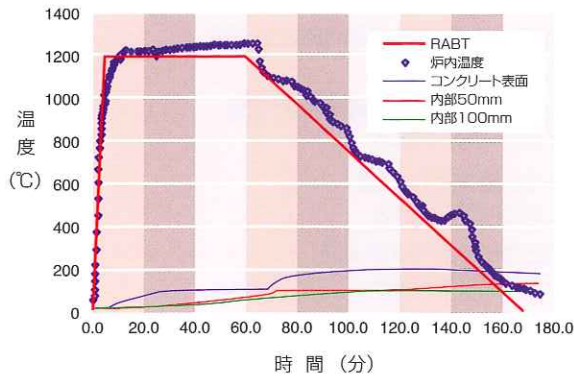
1. コンクリート下地調整
下地に埃、油等が付着していると付着力が損なわれるため、十分な洗浄、清掃が必要です。
2. メッシュ取付およびプライマー処理
剥落防止用にメッシュを取付け、プライマー処理を行います。
3. 耐火材吹付け
ミキサで清水と混ぜ（水量15～19L/袋）、吹付け機で吹付けます。





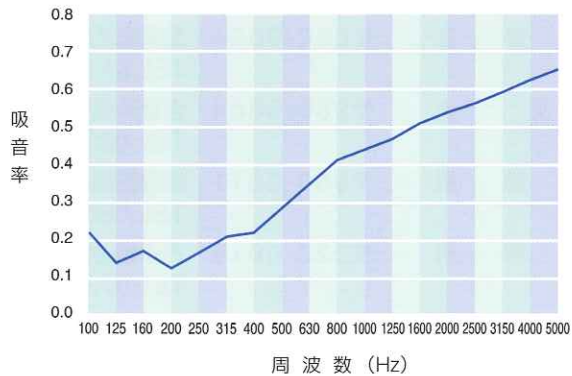
耐熱性能

RABT加熱曲線および耐火試験結果の一例(被覆厚さ30mm)
被覆厚さ30mm時のコンクリート表面最高温度:200℃



吸音率

太平洋フェンドライトの残響室法吸音率の一例
(被覆厚さ23mm)



一般性質

比重	0.55~0.85kg/l (絶乾状態)
含水率	6.0%
圧縮強度	1.5N/mm ² ~
接着強度	0.1N/mm ² ~
熱伝導率	0.14~0.30W/(M·K) (at20℃)
比熱	0.97kJ/(kg·K) (at25℃ to 35℃)
有害性	有害ガスの発生は無し

製品データ

色	オフホワイト
硬化	水硬
引火点	なし
練り上がり数量	1.43m ³ /t (約48m ² /t ※被覆厚さ 30mm)
包装	20kg袋
pH 値	12.0~12.5 (湿潤時)

可使用時間	約1時間
強度発現性	強度50% 約5日
	強度75% 約12日
	強度98% 約28日

吹付け耐火被覆施工上の注意

施工上の注意

- 気温が5℃以下の場合は、施工を中止するか適当な採暖措置を行ってください。
- 施工後、約1日程度、衝撃・振動等は与えないようにしてください。

材料保管上の注意

- セメントがベースになっておりますので、製造後6ヶ月以内にご使用ください。
- 材料は湿気のない場所に水がかからないように保管してください。

安全上の注意

- 吹付け材が皮膚にかかったり目に入ったりしないように、また、吸い込まないようにしてください。
セメントに対するアレルギーがある場合は特に、手袋、保護メガネ、フェイスマスク、保護クリームを使用してください。
- 本製品が皮膚に付いた場合は、ぬるま湯と石鹸または専用のハンドクリーナーで洗い流してください。
- 目に入った場合は、大量の水で洗い流し、炎症が治まらない場合は医師の診断をあおいでください。